

10/19(木)  
搬入予定

春は、どこから  
やってくるのだろう。 /

冬の植物観察日記  
鈴木 純



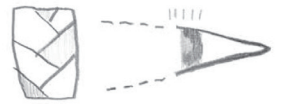
<帯なし>

僕は、まだ春よ、  
こないでくれと  
思っている。

Records from October to March (10月から3月までの記録) 雷鳥社

多くの人にとって、  
植物観察といえば  
春から秋にかけてするもので、  
冬にするイメージを持つ人は  
どうやら少ないようだ。

でも、僕は  
冬も植物観察をしている。  
しかも、とても前向きに。  
僕は好きなのだ。冬が。



植物観察家の日記。  
新しい土地で迎える、  
はじめての冬のこと。

2022年10月から  
2023年3月までの

### 「冬の植物観察日記」鈴木純

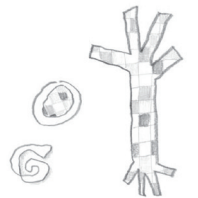
本書は秋から冬、そして春を迎えるまでの6か月間の記録です。  
東京から山梨へ移住した植物観察家の鈴木純さん。街より野山が近くなったけれど、観察家としての日々は変わりません。生活の中で出会った身近な植物を、遠くから眺めたり、ぐっと自分に引き寄せたり。そんな風にしていつも観察しているのは、植物の「わかっていないこと」、まだ形のない「なにか」。山梨で迎えた厳しい冬と、そこにある形のない春。

書誌情報

『冬の植物観察日記』  
定価：本体¥1,900+税  
仕様：四六判変型 (H180×W127)  
並製 / 4C / 272 ページ  
ISBN : 978-4-8441-3798-6 C0095

内容

- 10月 美味しいものが降ってくる季節 秋の伝承遊び
- 11月 落ち葉は宝物 移動する実と種
- 12月 冬の到来 霜をまとう植物たち
- 01月 一変する景色 閉じ込められた時間
- 02月 冬と春の端境期 草たちの命がけの冬越し
- 03月 足元から湧く春 つながりを取り戻す植物の世界



10/10(火) 〆切

新刊委託

帳合・貴店名

冊

ご担当者名

鈴木 純 (すずき・じゅん)  
植物観察家。植物生態写真家。1986年東京都生まれ。野山ではなく、街中をフィールドとした植物観察会を行っている。2021年に第47回東京農業大学「造園大賞」を受賞。著書に『そんなふう生きていたのね まちの植物のせかい』『種から種へ命つながるお野菜の一生』(ともに雷鳥社)、『ゆるっと歩いて草や花を観察しよう! すぐすぎる身近な植物の図鑑』(KADOKAWA)、『子どもかんさつ帖』(アノニマ・スタジオ)ほか、雑誌等への寄稿多数。NHKの自然番組「ダーウィンが来た!」出演。

10冊以上のご注文で  
パネル・POPをご用意いたします。  
「冬の植物パネル展」(本書未掲載写真を含む)  
のご相談も承ります。

パネル希望  POP 希望



FAX 03-5303-9567

〒167-0043 東京都杉並区上荻2-4-12  
TEL 03-5303-9766 / info@raichosha.co.jp

※おかけ間違いにご注意ください